



特集1
優しさいっぱい!
のんほいパーク

特集2
とよはしまちあるき
生まれ変わった
豊橋市美術博物館を歩こう



発行 一般社団法人豊橋観光コンベンション協会
TEL0532-54-1484 <http://www.honokuni.or.jp/toyohashi>
〒440-0075愛知県豊橋市花田町石塚42-1 [豊橋商工会議所8F]
協力 一般社団法人ほの国東三河観光ビューロー

● 優しいが 愛情たっぷりの飼育で毎日元気! ● ご長寿動物

国内最大級の放飼場を持ち、ゾウの飼育に力を入れているのんほいパーク。人気者のダーナは53歳、体重約5トンの立派なおスゾウです。1973年に来園したボルネオシロテヒゲテナガザルのピッピーは52歳になります。のんほいパークには他にも30歳を超える動物たちがいますが、そんなご長寿動物たちに会いに訪れるファンも多いとか。小さい頃ワクワクしながら会いに来た動物に、今度は親になった自分が子どもに見せたくて訪れる人。若い頃見た動物が今でも元気に頑張っている姿に勇気づけられるという人。理由はさまざまですが、「いつまでも元気に長生きしてね」というみんなの思いを、愛情たっぷりの飼育が支えています。※年齢は3/1現在



ピッピー52歳



ダーナ53歳

ミネ32歳

● 優しいが 地域の人々と一緒に盛り上げ、魅力を発信!

豊橋創造大学の『のんほいパーク盛り上げ隊!』の学生さんたちが企画している『撮っておき!のんほいフォトアワード』。たくさん寄せられる写真をもとに毎年カレンダーを製作・販売しています。また、雨の日に見せる動物の特性や、雨の日ならではの情景など、雨の日だからこそ楽しめるスポットが紹介されている「雨の日の楽しみ方」マップも作成しました。こちらは愛知大学の学生さんが企画したもの。こんな風になんほいパークは地域の人たちのやさしさに支えられながら、いろんな魅力を発信しています。



雨の日ものんほいパークへ行くなら! 雨の日ならではの楽しみ方を紹介!



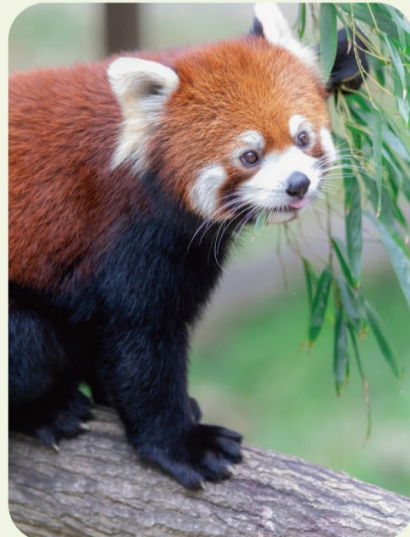
詳しくはこちら

楽しいだけじゃない!

優しさいっぱい! のんほいパーク

豊橋産業文化大博覧会や第1回豊橋まつりのNON HOI PARK 開催など活気に満ちた1954年に開園、今年70周年を迎える豊橋総合動植物公園。「のんほいパーク」の通称で親しまれ、令和4年2月に来場者数100万人を突破した人気の秘密は「優しさ」にあります。今回はそんなのんほいパークならではの優しさをご紹介します!

● 優しいが 動物のことを考えた取組みが環境にも良いこと




のんほいパークでは飼育員たちが青草を育てており、ゾウやサイの餌に利用しています。園の近くで生育している竹はレッサーパンダやゾウの餌となり、園内のカンノキ、ヤマモモはキリンやカンガルーのお腹を満たします。また、東三河で駆除の対象となったシカはライオンの食事に。皮毛や骨が付いた肉を前脚で押さえ骨をかみ砕きながら食べることで、野生に近い行動が再現されストレス発散にもなるとか。駆除された動物の命も無駄にせずすみませす。こんな風にして園全体で環境にも動物にもやさしい取組みがなされています。

● 優しいが のんほいパーク認定アーティスト 花島愛弥さんの存在


憩いの広場隣の多目的トイレ・授乳施設の外壁、施設内の壁やカーテンなどに施されたあたたかな雰囲気イラスト。これはのんほいパークの動物をテーマに創作活動をしている花島愛弥(はなじまあや)さんによるもの。動物が大好きで幼い頃からのんほいパークを訪れ、動物の絵を描いてきた花島さんのイラストは、動物たちを通じて「生きる喜びを描いている」と言われ、カラフルな色と愛らしさに溢れています。そんな花島さんは、園内での芸術活動などにより、のんほいパークの魅力向上に関わる人として認定された「のんほいパーク認定アーティスト」です。これからも様々な創作活動が期待されています。



花島愛弥さん プロフィール
自閉症で知的障がいがある。幼稚園で絵と出会うが、小学校に入ると一時は強いストレスで描けなくなる。学校に行けない時期、大好きな動物園に通ううちに回復。愛弥さんの気持ちを表現する手段としての絵が多くの人に癒しを与えている。



のんほいパーク認定アーティスト 花島愛弥デザイン 消しゴムはんこアート体験
行楽シーズンなど繁忙期の土日祝を中心にのんほいパーク内で開催しています。開催情報は公式X(旧Twitter)でお知らせします。



● 優しいが 感覚にやさしい「センサリーフレンドリー」を実施

のんほいパークでは、人の声や赤ちゃんの泣き声に過敏、人混みが辛い、など障がい等により通常入園が困難な方を対象に、休園日に利用できるセンサリーフレンドリーの取り組みがあります。センサリーフレンドリーとは、感覚にやさしいという意味。感覚過敏の人は、さまざまな音が溢れる人混みに行くとパニックを起こすこともあります。人がいない、音のない静かな休園日に訪れることで、動物たちの生き生きとした姿を安心して楽しんでいただくことができます。花島愛弥さんもこのセンサリーフレンドリーを利用して動物を描くことが多いそうです。



※この制度を利用するには、事前にのんほいパークへの登録が必要です。